



平成

18

年度

2006

財団設立12年目を迎え、事務局を多気町社会福祉協議会内に賃借しておりましたが、保管資料の増大と老人福祉助成活動事業拠点と地域老人との交流が図れ、三重県下老人介護施設職員の資質向上を図る目的とした研修会の開催並びに、助成事業活動贈呈式の出来る会館の必要性を考え会館建設を計画、多気町が福祉拠点と位置づける天啓公園南エリア開発の一角の土地を多気町当局の好意により取得し会館建設を進めるべく、理事会並びに評議員会に図り建設予定地の視察を経て設計業務に入る。

ハード面の助成事業として、リフト付送迎車輛と軽自動車7台と各種車椅子等備品の寄贈を行い、吉田逸郎理事長より目録並びに備品の贈呈を行った。

記念講演では、エム・アール・シー足坂三長社長を講師に迎え「介護施設における接遇について」と題して講演を開催した。

ソフト面の研修事業として、介護施設職員の更なる資質向上を図るため、介護施設職員の接遇研修訪問入浴施設職員研修とリーダー養成と施設での問題点の洗い出しを行う研修等5回の研修会に県下介護施設から91施設137名の参加を得て実施した。

厚生労働省から6月1日人口動態統計が発表され05年には総人口の減少が予測より2年早くマイナスになり75歳以上の高齢者の占める割合は8.9%になり30年には17.8%と予測され超高齢化社会を迎えるとみられる、少子高齢化が進む中、平成12年4月に介護保険制度が導入され介護を社会全体で支え、利用者の希望を尊重した総合的なサービスが安心して受けられる仕

組みが創られましたが5年が経過した今年度初めての改正となりましたが新たに要介護状態が軽度の人が悪化しないように、また本人の意欲や能力を引き出すために「介護予防」のサービスが利用できるようになりましたが、従来受けられていたサービスが切り捨てられケアマネージャーの1人当たり担当する利用者の人数が50人から39人となり利用者の切捨て、介護保険の改悪と叫ばれた改正となりました。

また、新たに「介護サービス情報の公表制度」が設けられ通所事業、訪問介護、訪問看護、訪問入浴、福祉用具貸与、特別養護老人ホーム、老人保健施設、有料老人ホーム、居宅介護支援の9種類の事業で研修会参加の有無等が調査対象となり調査結果が公表されるという制度が導入され財団の研修会でも研修項目にも反映した研修を実施しました。

9月には戦後生れで初めての第90代内閣総理大臣に安倍晋三が誕生する。

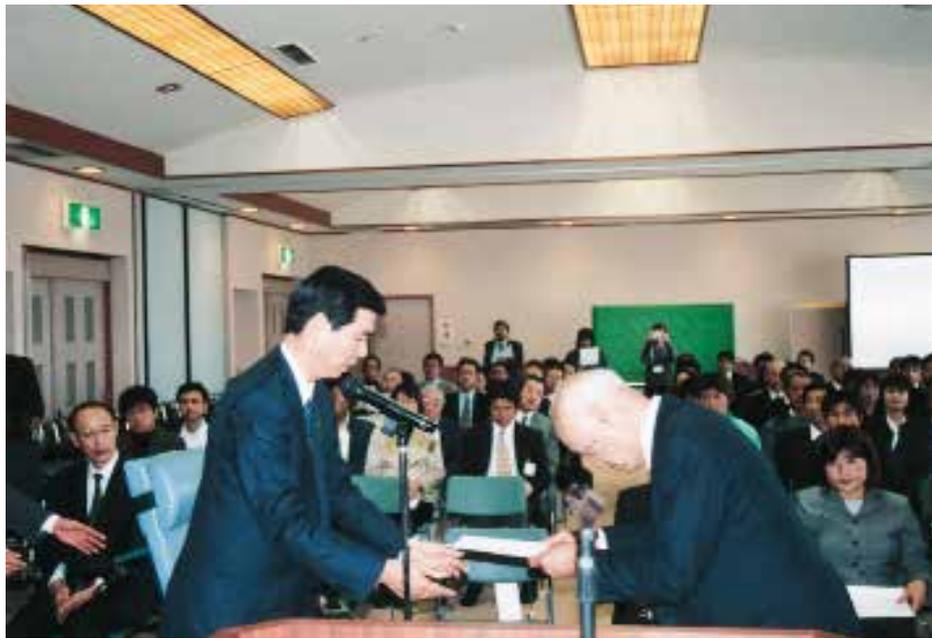
平成17年度車椅子寄贈に対し、社会福祉功労者顕彰として菰野町社会福祉協議会から感謝状を授与され多気郡社会福祉協議会から多年に渡り郡内の施設に対して助成活動を実施してきた功績を讃え表彰されました。

多気町は合併に伴い新町の花と木・鳥を公募し自然を愛し、環境を重視する住みよい町づくりを目指し、花は乱獲による減少が懸念され環境保全につなげる意図を込め「ササユリ」に、木は町内の樹齢六百年とされる県三大クスノキにちなんで「樟」に、鳥は町内全域に生息し、毛色や鳴き声の美しさで「メジロ」が決まりました。

# 平成18年度助成事業目録贈呈式



吉田逸郎理事長挨拶



寄贈品並びに目録贈呈



記念講演



贈呈式

老人福祉施設等整備事業(助成・寄贈)

8,510,500円

平成18年度  
寄贈品  
一覧



リフト車（10人乗り）／1台



軽自動車／7台



自走式・介助用車椅子／51台



フルクライニング車椅子／10台



マイチルト車椅子／4台



エアーマット／6台

多気町  
社会福祉協議会

## 老人福祉環境整備事業

3,660,000円

天啓の里老人デイサービスのリフト車両が老朽化（頻繁に故障）のため更新

## ◆ リフト車両（10人乗り） 1台

天啓の里・ささゆり苑の居宅介護支援車両が耐用年数の経過に伴い老朽化（頻繁に故障）のため更新

## ◆ 軽自動車 2台

## 近 隣

- ・ 松阪市
- ・ 伊勢市
- ・ 多気郡
- ・ 度会郡

## 各老人福祉施設

## 老人福祉環境整備事業

2,455,900円

高齢者いきいきサロン活動車・新設特養の整備と耐用年数の経過で老朽化（頻繁に故障）のため更新

## ◆ 軽自動車3施設 3台

（社）玉城町社会福祉協議会（高齢者いきいきサロン）

（社）度会町社会福祉協議会

（社）育心会（特養 松阪天啓苑）

老朽化による更新・学校の総合学習・福祉教育や貸し出し加齢及び介護度の高い利用者の増加に伴い一般車椅子では対応が困難なため身体状況に対応できる車椅子が必要な利用者の増加による整備

## ◆ 自走式介助用車椅子 5施設 25台

（社）大紀町社会福祉協議会（本所 地域福祉課）

（社）三重高齢者福祉会（福祉施設 協和苑）

（社）むつみ福祉会（グループ あゆみ園）

（社）伊勢医心会（特養 神路園）

（医）吉創会（療養 虹の丘病院）

## ◆ フルリクライニング車椅子 4施設 4台

（社）明和町社会福祉協議会（デイ 明和の里）

（社）あおば会（デイ 青葉）

（社）邦栄会（特養 双葉園）

（社）司 会（老保 弘樹苑）

## ◆ マイチルト車椅子 2施設 2台

宮川福祉施設組合（特養 やまびこ荘）

左記以外の  
県下各市町の  
老人福祉施設

老人福祉環境整備事業

2,394,600円

権利擁護活動車両と居宅介護活動車両の不足に伴う整備

◆ 軽自動車 2施設 2台

- (社) 鈴鹿市社会福祉協議会 (鈴亀権利擁護センター)
- (社) 弘仁会 (特養 国津園)

車椅子利用者の増加と老朽化による更新、高齢化と重度化に伴いニーズに合った車椅子の提供と機能の高い車椅子による介護サービスの向上と身体状況に合った車椅子の提供

◆ 自走式介助用車椅子 6施設 26台

- (社) 熊野市社会福祉協議会 (デイ 神川・育成) 1台
- (社) こしば福社会 (特養 トマト) 5台
- (社) はまゆう会 (特養 フルハウス) 5台
- 志摩広域行政組合 (特養 ホーム才庭寮) 5台
- (社) こもはら福社会 (特養 はなの里) 5台
- (社) 青山福社会 (特養 いがの里) 5台

◆ フルリクライニング車椅子 6施設 6台

- (社) 敬愛会 (特養 慈宗院)
- (社) 長茂会 (ショート スバル台)
- (社) 杏南会 (特養 たちばな園)
- (社) 平成福社会 (特養 ブィラ四日市)
- (社) 千草きらら会 (デイ 城山苑)
- (社) 名張厚生協会 (特養 名張特養ホーム)

◆ マイチルト車椅子 3施設 3台

- (社) 素問会 (特養 芹の里)
- (社) 憲甚会 (特養 ソフトハウス)
- (社) 福寿会 (特養 福寿園)

褥創予防と体調不良時の身体軽減の必要性の増加に伴う整備

◆ エアーマット 6施設 6台

- (社) 白壽会 (特養 豊野みかんの里)
- (社) 明光会 (特養 笑美の里)
- (社) 紀和会 (特養 ケアホーム熊南)
- (社) 菊寿会 (特養 みやま園)
- (社) アパティア福社会 (特養 アパティア長島苑)
- (社) 健和会 (特養 パークレジデンス)

**第1回 介護事業施設職員研修会（接遇）（6）**

（参加 23施設 29名）5月15日

法人（新町福祉会・ゆり・敬愛会・ウエルケア・井上内科病院・碧会・いがほくぶ・あおば会・いろどり福祉会・度会町社協・玉城町社協・伊勢医心会・名張厚生協会・宮川福祉施設組合・安全福祉会・太陽の里・弘仁会・松阪地区医師会・伊勢市社協・吉創会・斎宮会・葉のはな）

利用者の満足度を高め、施設をより良い方向に導き職員を促し自発的に変えていこうとする意識づくり、職場を活性化していくための「仕組みづくり」と利用者宅への送迎時の訪問に対するのマナー・対応や言葉使いを交えて対応の実習を組み入れながらの研修会開催です。

**[講師のコメント]**

研修に参加していただく職員の皆様の受講に対する姿勢が真剣さを感じられるようになってまいりました。

従来受講生からは、「自分は、ある程度できている」という雰囲気、「マナーなんて、大体分かっている」という態度が見受けられましたが、今回は「言葉づかいや基本動作など、知識をしっかりと自分のものにしたい」という姿勢が感じ取れました。



**講演 “心のサービス” 介護従事者の接遇マナー**

**講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子**

1. お客様（利用者）の満足
2. お客様を迎えるマナー
3. 好感を持たれる話し方
4. 利用者との会話と動作
5. 利用者宅への訪問対応
6. 信頼される電話対応
7. サービスの心得

良いサービスの基本的な心がけ、心からのサービスの提供。

### 受講生の感想

挨拶の大切さ、利用者さんに対する言葉の掛け方の難しさ、相手の顔が見えない電話での受け答え等実践を取り入れた研修内容のため飽きずに楽しく受けられ充実した研修であったとの感想が聞かれました。

## 第2回 訪問入浴施設事業職員研修会 (5)

(参加 10施設 28名) 7月 9日

法人 (伊勢市社協・尾鷲市社協・鳥羽市社協・三重県済生会・いなべし社協・菜のはな・志摩市社協・伊勢医心会・菰野町社協)

介護保険法の改正により「介護サービス情報の公表制度」に対応する為、施設あるいは各事業の質を高めるための制度であくまで調査で調査員が数十項目の内容調査をあるか・ないか、で聞き取り調査を行いそれをインターネット上で一般に公表される、ないからといって評価・改善指導を受ける罰則があるのではない、公表することによって利用者や家族はその施設はきちんとしているか、していないかの判断材料となりきちんとしている施設を選ぶようになる。

このため、この研修会では必修項目の倫理や法令・感染症予防・プライバシー保護と事故防止の項目を入れると共に基本的な部分として受講者による体験入浴実技指導を取り入れた研修の実施となりました。



### 講演 訪問入浴介護研修

講師 デベロ老人福祉研究所 斎藤 剛

1. 訪問入浴介護従事者が守るべき倫理と法令 (必修研修)
2. 訪問入浴介護における感染予防 (必修研修)
3. プライバシーの保護と事故防止 (必修研修)
4. 実技 (受講者による体験入浴実技指導)
5. 実技

## 受講生の感想

今回の研修を基本に利用者さんの情報に沿ったものにしたい、実技があり解りやすかった、他の入浴車種の施設との意見交換が出来た、入浴介助の洗身方法が間違っていたのが解った、実技で利用者さんの移動が良く解った。

**第3回 施設入浴介護職員研修会（2）**

（参加 20施設 30名）7月10日

法人（新町福祉会・北斗会・明和町社協・尾鷲市社協・大台町社協・ケアハイツ玉城・エイジハウス・いろどり福祉会・度会町社協・紀和会・玉城町社協・弘仁会・青山福祉会・敬愛会・碧会・吉創会・宮川福祉施設組合・長茂会・三重郡老人福祉施設組合・井上内科病院）

介護保険法の改正により「介護サービス情報の公表制度」に対応する為、施設あるいは各事業の質を高めるための制度であくまで調査で調査員が数十項目の内容調査をあるか・ないか、で聞き取り調査を行いそれをインターネット上で一般に公表される、ないからといって評価・改善指導を受ける罰則があるのではない、公表することによって利用者や家族はその施設はきちんとしているか、していないかの判断材料となりきちんとしている施設を選ぶようになる。

このため、この研修会では必修項目の感染症・食中毒対策やプライバシー保護の項目を入れた研修の実施となりました。

**講演 施設入浴介護研修**

**講師 デベロ老人福祉研究所 斎藤 剛**

1. 施設入浴における洗身の手順
2. 施設入浴における健康状態観察
3. 施設における感染症・食中毒対策Ⅰ（必修研修）
4. 施設における感染症・食中毒対策Ⅱ（必修研修）
5. 施設におけるプライバシーの保護（必修研修）

### 受講生の感想

日常的な業務に役立つ知識等が吸収出来た、日頃の介護で見直す点が理解出来た、介護方法の再確認が出来た、手洗いや手袋の着用を徹底したい、感染は利用者を守るだけでなく介護者を守ることの大切さが分かった。

## 第4回 介護施設中堅リーダー研修会（1）

（参加 21施設 28名）9月12日

法人（新町福祉会・明和町社協・ウエルケア・尾鷲市社協・大台町社協・ケアハイツ玉城・いろどり福祉会・度会町社協・玉城町社協・名張厚生協・弘仁会・敬愛会・宮川福祉施設組合・碧会・ゆり・長茂会・三重郡老人福祉施設組合・三重県済生会・吉創会・北斗会）

施設では人材がとても大切です、また職場においても人材は業績を大きく影響を与えます職員の中でも中堅職員やリーダーの影響も大きくなります。

今、注目されております職員研修で集団を統率し、人を動かしリーダーシップを発揮していく職員の養成、職場の中でも部下に対して「期待」「関心」を持ち成長に必要なポイントにきずかせ自己啓発をさせ成長を促し部下の指導をしていく上で特に必要になるコーチング技術の習得を目的とした研修であります。



講演 “中堅リーダーなど” コーチング技術の研修

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. リーダーの心得
2. チームワークの大切さ
3. コーチングの基礎
4. コーチングの実践
5. 答えを引き出す要領
6. コーチングの実践

## 受講生の感想

コーチングの難しさ必要性を痛感、今後の人材育成に役立つ研修でした、職員に対しての注意の仕方が分かった、本人の意見をよく聞き注意する点を分からせる、有意義な研修でした。

**第5回 介護職場の課題解決研修会（1）**

（参加 17施設 22名）11月30日

法人（明和町社協・ウエルケア・尾鷲市社協・大台町社協・ケアハイツ玉城・伊勢市社協・度会町社協・太陽の里・名張厚生協会・敬愛会・碧会・ゆり・あおば会・宮川福祉施設組合・三重県済生会・こしば福祉会・暁純会）

この、研修は上司・部下の区別なく、同じ目的に向かって進むことが出来ます、発生した問題点を体系的に捉え、細かく分析し、対策を立て、解決を図っていきます。

また、施設内のコミュニケーションを深めると共に部下のモチベーションを持たせる為の要素にもなり、さらに職員のスキル向上と職場の活性をはかります。

職場では、いろいろな問題が発生するものです、その問題を放っておくと段々大きくなり取り返しのつかない状況に追い込まれてしまいます。

1：29：300の法則（ハインリヒの法則）が示すように一つの問題の奥には29もの中問題があり、29の中問題の奥には300もの小問題があると言われています、それらの問題を日常常務の中で解決していくことが“利用者へのサービス”につながっていきます。

その問題を解決していく為には、QC手法（品質管理）を活用することで効率的な解決方法が得られます。

例えば、「問題の捉え方と発見の方法で」目に見える問題、見えない問題がりますが問題を捉えるという意識の目がないと問題はつかめません、一つの問題の周辺には複数の問題が介在しております、一つの問題が解決したからといって、次の問題が控えていることを忘れてはいけません。

また、「特性要因図による原因の分析」で、一つの現象（特性）にいろいろな原因（要因）が複雑にからまりあって発生している様子を魚の骨のように体系的に図形化し判りやすくしたものです。

「改善すべき対策の立て方」で、データを整理して現状を把握したり、特性要因図の分析などから、真の原因（要因）は何かを抽出し、どのように改善するかを決める。などを具体的に研修しました。



**講演 課題解決のスキル向上研修**

**講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子**

1. オリエンテーション
2. 職場のサービス品質向上
3. 課題解決の進め方
4. 職場の問題点の発見
5. QC手法の実践（書き方・作り方）
6. 課題解決の発表

**受講生の感想**

他の施設職員との意見交換が出来た、一つのテーマに真剣に取り組めた、悩みはどの施設も同じことが解った。

**第9回吉田福祉基金杯GB大会**

後援（財）吉田福祉基金 4月16日

時折日差しのおそろぐ肌寒い日和となりましたが多気町のびのびパーク天啓GB場において県下54チームから350名の役員、選手が参加し選手たちは、真剣にプレーをしチーム間の融和を図りながら和気あいあいで開催する

優勝 伊賀オールズ（伊賀市）チーム  
準優勝 あじさい（伊賀市）チーム  
3位 若宮（亀山市）チーム



開会式



選手宣誓



大会競技



優勝 伊賀オールズ（伊賀市）チーム



大会運営スタッフ一同（天啓クラブ）